

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-59	高等学校	国語科	論理国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論国 703	精選 論理国語		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、選択科目としての性格や特色を意識するとともに、共通必修科目において育成された能力を基盤として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の関連する内容を発展させ、育成を目指す資質・能力を確かめながら、主体的に、対話をとおして、深く学ぶことができるよう、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに

意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もともと基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという行為は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、表現のための学習と理解のための学習とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。そのため、この教科書では、表現と理解を結びつけた独自の課題（＝学習の場）を設定することで、生徒たちの主体的な学習活動を促し、言語能力を総合的に高められるよう配慮しました。また、内向的な学びに向かいがちな学習のあり方に対する反省を踏まえ、自分の意見や考えの積極的な発信や他者との協働的な活動をとおして、開かれた個性、広範な教養が育まれることを目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいろどる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題の設定についても格別の配慮をしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
論理力と思考力	筆者が論ずる思考力と対比した論理力の特徴について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	14～18
納得の構造	筆者が論ずる論理の組み立てと文章構成の関係について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	19～25
情報の「メタ」化	筆者が論ずる情報の「メタ」化と思考を整理する方法について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	26～33
ぬくみ	筆者が論ずる都市生活における「相互性」「他者への想像力」、自己と他者の関係について考え、個人の価値を尊重してその能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）	40～47
ネット上の発言の劣化について	筆者が論ずるインターネット上での「言論の自由」について考え、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	48～55
マルジャーナの知恵	筆者が論ずる、「情報の商品化」という資本主義の現象について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	56～61
世代間倫理としての環境倫理学	筆者が論ずる未来世代への責任という観点から環境問題について考え、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。	66～73
人類による環境への影響	筆者が論ずる人類史の観点から環境問題について考え、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。	74～83
記号を使う動物	筆者が論ずる記号としての言語について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	90～97
言葉がつくる女と男	筆者が論ずる言葉とアイデンティティの関係について考え、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	98～104
病と科学	筆者が論ずる、「痛み」という観点から医療や科学の限界について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	108～115
動的平衡	筆者が論ずる、生命とは「動的平衡」のシステムであるという観点について考え、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。	116～125
ゲノム編集とiPS細胞	筆者が論ずる生命科学の可能性と課題について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	126～131
ミロのヴィーナス	筆者が論ずるミロのヴィーナスの「魅力」について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	138～144
空白の意味	筆者が論ずる日本の芸術作品における「空白」の意味について考え、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	145～151
「なぜ」に答えられない科学	筆者が論ずる「科学の知」とはどのようなものか考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	158～163
AI時代の「人間」	筆者が論ずるAIと対比した「人間」について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	164～171
「市民」のイメージ	アメリカの陪審制度をもとに、筆者が論ずる「市民」の意味について考え、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	176～181

「である」ことと「する」こと	筆者が論ずる「市民社会」における権利と義務について考え、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	182～193
情報ネットワーク社会	筆者が論ずる情報ネットワーク社会の課題について考え、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	200～203
擬似群衆の時代	筆者が論ずるメディアと「群衆」の新たな関係について考え、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	204～212
流言とメディア	筆者が論ずるAI時代のメディアリテラシーについて考え、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	213～219
夢は何語で見る？	筆者が論ずる多言語社会の現実や「可能性」について考え、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	224～231
「対話」の言葉をつくる	筆者が論ずる「対話」の言葉のあり方について考え、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	232～237
母親のための酸素マスク	筆者が論ずる、いま求められるケアについて考え、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	246～249
講演 持続可能な福祉社会への道	筆者が論ずる「福祉社会」に向けての課題と可能性について考え、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	250～257
「私」消え、止まらぬ連鎖	筆者が論ずる高度消費社会における「欲望」について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	262～266
落語の中の経済学	筆者が、落語「千両みかん」を読み直す経済学的な視点について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	267～274
「欲望」と資本主義	筆者が論ずる「欲望の開拓」という視点から資本主義について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	275～283
スポーツとナショナリズム	筆者が論ずるスポーツとナショナリズムの関係について考え、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	290～296
南の貧困／北の貧困	筆者が論ずる、構造的に捉え直した現代の「貧困」問題について考え、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	297～305
「文化が違う」とは何を意味するのか？	筆者が論ずる「文化相対主義」について考え、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	306～313
恐怖とは何か	筆者が論ずる、「自我」との関わりからの「恐怖」について考え、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	320～325
生命との関わり 精神科医として	筆者が論ずる、生命と「相互主体的に関わる」ことについて考え、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	326～333
ある〈共生〉の経験から	筆者が論ずる極限状況の経験から〈共生〉について考え、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	334～341
コンコルドの誤り	筆者が論ずる「コンコルドの誤り」という観点から、人間の思考について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	346～351

リスク社会論	筆者が論ずる「リスク社会」の観点から現代社会の諸課題を考え、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	352～360
コンクリートの時代	筆者がコンクリート建築から論じる「近代」という時代の特徴について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	368～374
現代日本の開化	「現代日本の開化」についての漱石の主張を現代の視点から捉え直し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	375～385
漫罵	「開化」の時代に対する透谷の論点について考え、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことを目指した（第一号）。	386～390
学問のすすめ	「学問のすすめ」の意義を、「実学」を手がかりに考え、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指した（第二号）。	391～395
読書の扉	「幅広い知識と教養」「真理の探求」「豊かな情操と道徳心」「勤労の精神」「生命や自然」「伝統と文化」「国際社会の平和」などを尊重し涵養するための読書活動を推進することを意図して、各単元で図書をテーマ別に紹介した（第一号、第二号、第三号、第四号、第五号）。	38,64,88,106, 136,156,174, 198,222,244, 260,288,318, 344,366,398

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-59	高等学校	国語科	論理国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論国 703	精選 論理国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 教材選定と作成の基本方針

1 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、日常生活における言語活動の活発化をはかり、言語運用能力の充実を目指した教材

教材の選定, 教材化にあたっては, 高等学校「現代の国語」における学習の成果をふまえて, 高校生として望ましい国語の力を身につけ, 日常生活における言語活動を活発化できるよう, 発達段階にふさわしい基本的なものを選びました。特に冒頭の単元に関しては, 「論理国語」の学習の導入として, 興味をもって学習し一層の発展が期待できるよう, 特別に工夫をこらしました。

2 生徒の思考力や論理性の育成に寄与し、現代社会の課題を主体的に考えることができる、客観的価値の高い教材

現代に生きる人間として, 生徒たちが自らの思考力, 判断力, 表現力を高め, さまざまな角度から問題を取りあげ, 課題を論理的に把握し, 人生, 社会, 言語について思いを深めることができる教材を精選しました。

3 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、共感をもって言語活動にとりくむことのできる教材

人間の普遍的な姿や, 思考・思想を表現した作品の教材化により, 生徒の思考力と想像力を刺激し, 共感をもって言語活動にとりくむことのできる作品を選びました。

4 読書に親しみ、知識と教養を広げることのできる教材

幅広い知識と教養を身に付け, 真理を求める態度を養うため, 実社会との関わりの中で読書に親しみ, 読書の意義と効用について理解を深めることのできる作品を選びました。

5 バランスよく配置された、定評ある教材と清新な現代的話題の教材

従来から教材化されて定評のある作品を機軸としながら, 現代的話題に満ちた清新な作品を教材化して, 生徒の興味を喚起できるように配置しました。

6 多様な言語活動に即した、具体的、実践的な教材

日常生活において, 適切に表現する能力を育成し, 伝え合う力を高め, 必要な言語能力を確実に身につけられる教材を精選しました。話し合いや討論, 調査や報告, 小論文など, 多様な表現活動の場に即した, 社会生活につながる実用性に富んだ言語活動を, 体系的に段階をおって配しました。その際, そうした活動を支えるための, 情報収集, コンピューターや情報通信ネットワークの活用にも配慮して総合的な学習ができるよう工夫しています。単に文例や模範文を示すのではなく, 言語活動の具体的な展開を教室での実践に即した形で提示することによって, 生徒が主体的に言語学習に取り組めるようにしました。

(2) 構成と配列の基本方針

言葉による見方・考え方ははたらかせ, 国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を, 言語活動をとおして育成するため, 一つ一つの教材の価値を大切に, 体系的な知識の習得と生徒の自発的・継続的な学習の流れを保障するよう, この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

1 全体の構成

教材の精選を図るとともに、「書くこと」「読むこと」及び「知識及び技能」を相互に関連させた第一部一から八、第二部一から八の合計十六の単元と、さまざまな言語活動で活用するための「資料編」で構成されています。言語活動をとおして言葉の力を身につけることができるよう、生徒の学校生活、日常生活に即した言語活動の充実を図りました。実用性に富んだ活動例を精選し、単に文例や模範文を示すのではなく、言語活動の具体的な展開を教室の実践に即した形で提示することによって、生徒が自らの考えをもち、価値観を育みつつ、創造的に共感をもって考えたり、主体的に表現したりすることができるようにしました。

2 単元の構成

それぞれの単元は、扉に単元の言語活動と学習目標、各教材での学習事項を提示するとともに、単元末に「単元の振り返り」を設定し、自ら学習を振り返る機会を設けています。言語活動をとおして身につけた力を自分で確認し、次の学習に生かすことができるような仕組みを目指しました。

また、それぞれの単元での学習の流れは、各単元の「学びを広げる」に設定した言語活動が、円滑に展開できるよう工夫しました。各教材に設定した「脚問」と「課題A」「課題B」を「学びを広げる」の言語活動と有機的に関連づけ、学習の重層化を図りました。各教材を密接に関連させながら学習することで、総合的な言語能力を身につけられるように配慮しました。

3 「知識及び技能」について

「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」、および「言語文化に関する事項」について、生徒の関心を広げ、国語の特質に対する理解を深めるために、さまざまな工夫をこらしました。各単元の言語活動については、音声、文字、情報、それぞれに即した注意点を具体的に示しました。

また、各単元には教材に関連する書籍を紹介する「読書の扉」を設け、実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めるようにしました。さらに、それぞれの教材に「脚注」「脚問」、語彙・漢字の取り立てなどによる、言葉の体系的学習指導を目指すなど、総合的な国語の運用能力の向上を図るため、特に配慮してあります。

4 学習指導についての配慮

学習指導への配慮から、各教材の下段の注欄には、次の項目を設けました。

①脚注：1, 2……の番号をつけ、固有名詞や難解な語句、理解の必要な言葉などを解説しました。

②脚問：内容理解の手がかりになる箇所に①②……の番号をつけ、簡単な問いとして問①のように掲げました。

「脚問」は「課題A・B」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく節目と位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることのないように配慮しました。

③語句：*をつけ、語彙習得のため、意味や用法に注意して身につけておきたい語句を抜き出して示しました。

また、各教材には、次の項目を設けました。

①課題A：文章の内容を理解し、考え、言語活動への手がかりとなる問いを設けました。

②課題B：理解した文章の内容をふまえ、協働的、主体的にその理解をより深めるための学習課題を、問いや作業の示唆の形で盛り込みました。

③語句：教材中の語句に着目し、語彙力を高めるための問いを設定しました。

④漢字：常用漢字の習得のために、教材中の注意すべき漢字を選び掲載しました。

さらに、各単元には、次の項目を設けました。

①学びを広げる……各単元には、書く、読む、それぞれの単元の目標に対応し、言葉の学びを協働的、主体的に深め、広げる言語活動を設けました。

②コラム……単元の学習で扱ったテーマや内容に関する、多様な文章をコラムとして収録しました。テーマや内容に関する生徒の理解を深めるとともに、実社会へと関心を広げていきます。

③単元の振り返り……各単元末には、各自で単元での学習を振り返って確認し、次の学習に生かしていくため、単元の振り返りを設けました。

④読書の扉……読書に親しみ、読書活動を広げる手がかりとして、教材と関連のある書籍を選び、紹介しました。

この他、適宜、二次元コードを教科書に付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載しました。

5 用字・用語・表記について

①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。

②常用漢字以外の漢字については、原則として教材本文ごとの初出に振り仮名をつけました。

③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには教材初出で振り仮名をつけました。

④仮名遣いは、口語体の文章は現代仮名遣いとし、いわゆる文語体の文章は歴史的仮名遣いとししました。振り仮名も同様です。

⑤外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

6 写真・挿絵・図版などについて

教材の理解や言語活動の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版などを必要に応じて掲載しました。

7 「資料編」について

「資料編」には、学習活動を多様に展開するための資料となるもの、また、学習者が主体的に自らの学びを広げていくために参考となる以下の資料を収録しました。「現代社会を読み解くために」（1近代・現代社会 2環境問題 3言語 4グローバル化 5生命・身体・科学 6メディア・情報 7芸術・文化 8心理・認知）「情報の読み方・扱い方」「報道の文章」「調査から発表へ」「読解から表現へ」（1引用 2比較 3要約 4調査 5論理 a 根拠と主張 6論理 b 接続 7推敲）「論文・レポートの書き方」

この「資料編」の活用により、多様な学びの可能性が開かれ、学習者の言葉の生活が豊かになっていくことが期待されます。

2. 対照表

図書の構成・内容（教材名）	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第一部			
一 論理国語へのいざない 論理力と思考力 野矢茂樹 納得の構造 渡辺雅子 情報の「メタ」化 外山滋比古 《学びを広げる》中身当てクイズ 佐藤雅彦 [コラム] 「流れ」と「構え」 石黒圭	●読む ア・イ構造と内容の把握 [言語活動] ア ◆言葉 ア言葉の働き イ語彙 ウ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理	14~18 19~25 26~33 34~35 36~37	8
二 「情報社会」を生きる I ぬくみ 鷲田清一 ネット上の発言の劣化について 内田樹 マルジャーナの知恵 岩井克人 《学びを広げる》情報社会について考える [コラム] 遅いインターネット 宇野常寛	●読む ア・イ構造と内容の把握 ウ・エ・オ精査・解釈 [言語活動] イ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理	40~47 48~55 56~61 61 62~63	9

<p>③ 環境問題を考える 世代間倫理としての環境倫理学 加藤尚武 人類による環境への影響 鷲谷いづみ 学びを広げる 環境問題について考える (資料)「企業の社会的責任(CSR)」について 萩原愛一 [コラム]「人新世」の環境危機 斉藤幸平</p>	<p>●読む ア・イ構造と内容の把握 ウ・エ・オ精査・解釈 [言語活動] オ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理 ウ推論</p>	<p>66~73 74~83 84~85 86~87</p>	<p>10</p>
<p>④ 言葉を見つめる I 記号を使う動物 池上嘉彦 言葉がつくる女と男 中村桃子 《学びを広げる》言葉の力について考える [コラム] ツイッター哲学 千葉雅也</p>	<p>●読む ア・イ構造と内容の把握 ウ・エ・オ精査・解釈 [言語活動] エ ◆言葉 ア言葉の働き イ語彙 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理</p>	<p>90~97 98~104 104 105</p>	<p>8</p>
<p>⑤ 生命について考える 病と科学 柳澤桂子 動的平衡 福岡伸一 ゲノム編集とiPS細胞 山中伸弥 学びを広げる 生命について考える (資料) iPS細胞と生命倫理 野家啓一 [コラム] 倫理の窓から見たiPS細胞 赤塚京子</p>	<p>●書く イ情報の収集, 内容の検討 ウ構成の検討 エ考えの形成, 記述 カ推敲, 共有 [言語活動] エ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理 ウ推論</p>	<p>108~115 116~125 126~131 132~133 134~135</p>	<p>8</p>
<p>⑥ 芸術について考える ミロのヴィーナス 清岡卓行 空白の意味 原研哉 《学びを広げる》美術作品を紹介しよう [コラム]「あなただけのかえる」の見つけ方 末永幸歩</p>	<p>●書く イ情報の収集, 内容の検討 ウ構成の検討 エ・オ考えの形成, 記述 カ推敲, 共有 [言語活動] エ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理</p>	<p>138~144 145~151 152~153 154~155</p>	<p>10</p>
<p>⑦ 科学技術と人間 「なぜ」に答えられない科学 池内了 AI時代の「人間」 堀内進之介 《学びを広げる》科学技術と人間について考える [コラム] 人間を「機械」にする罫 伊藤亜紗</p>	<p>●読む ウ・エ・オ精査・解釈 カ・キ考えの形成 [言語活動] ウ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理</p>	<p>158~163 164~171 171 172~173</p>	<p>8</p>
<p>⑧ 「市民社会」について考える 「市民」のイメージ 日野啓三 「である」と「する」こと 丸山真男 《学びを広げる》「市民社会」について考える (資料) 国政選挙における年代別投票率について 総務省 [コラム] 懐疑をいかに乗り越えるか 橋爪大三郎</p>	<p>●読む ア・イ構造と内容の把握 ウ・エ・オ精査・解釈 カ・キ考えの形成 [言語活動] イ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理 ウ推論</p>	<p>176~181 182~193 194~195 196~197</p>	<p>10</p>
<p>第二部</p>			
<p>① 「情報社会」を生きる II 情報ネットワーク社会 中村雄二郎 擬似群衆の時代 港千尋 流言とメディア 佐藤卓己 《学びを広げる》メディアリテラシーについて考える [コラム] ネガティブ・ケイパビリティ 答えのない事態に耐える力 帯木蓬生</p>	<p>●読む ウ・エ・オ精査・解釈 [言語活動] オ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理</p>	<p>200~203 204~212 213~219</p>	<p>8</p>
<p>② 言葉を見つめる II 夢は何語で見る? 多和田葉子 「対話」の言葉をつくる 平田オリザ 学びを広げる 外来語について考える (資料) カタカナ語は享受すべきか 川口良・角田史幸 [コラム] 「母国」という幻想 温又柔</p>	<p>●書く イ情報の収集, 内容の検討 ウ構成の検討 エ考えの形成, 記述 カ推敲, 共有 [言語活動] ア ◆言葉 ア言葉の働き イ語彙 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理 ウ推論</p>	<p>224~231 232~237</p>	<p>8</p>
<p>③ 共生社会を創造する 母親のための酸素マスク 宮地尚子 講演 持続可能な福祉社会への道 広井良典 《学びを広げる》「福祉社会」を考える [コラム] 社会的包摂と震災 阿部彩</p>	<p>●書く ア題材の設定 イ情報の収集, 内容の検討 ウ構成の検討 オ考えの形成, 記述 カ推敲, 共有 [言語活動] エ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理 ウ推論</p>	<p>246~249 250~257</p>	<p>7</p>

<p>④ 経済について考える 「私」消え、止まらぬ連鎖 高村薫 落語の中の経済学 大竹文雄 「欲望」と資本主義 佐伯啓思 《学びを広げる》経済との関わりから 社会的課題について論じる [コラム] 「人新世」に生きる 元村有希子</p>	<p>●書く ア題材の設定 イ情報の収集、内容の検討 ウ構成の検討 エ・オ考えの形成、記述 カ推敲、共有 [言語活動] イ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理 ウ推論</p>	<p>262~266 267~274 275~283</p>	<p>10</p>
<p>⑤ 国際社会を考える スポーツとナショナリズム 阿部潔 南の貧困／北の貧困 見田宗介 「文化が違う」とは何を意味するのか？ 岡真理 《学びを広げる》「多文化共生社会」について考える 〈資料〉多文化共生社会の構築に向けて 相原次男 [コラム] 誰かの靴を履いてみること プレイディみかこ</p>	<p>●読む ウ・エ・オ精査・解釈 カ・キ考えの形成 [言語活動] イ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理</p>	<p>290~296 297~305 306~313</p>	<p>10</p>
<p>⑥ 心と向き合う 恐怖とは何か 岸田秀生 命との関わり 精神科医として 木村敏 ある〈共生〉の経験から 石原吉郎 《学びを広げる》「人の心」について考える [コラム]対談 褒めるということ 森俊夫・黒沢幸子</p>	<p>●読む ウ・エ・オ精査・解釈 [言語活動] イ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理</p>	<p>320~325 326~333 334~341</p>	<p>9</p>
<p>⑦ 「リスク社会」を生きる コンコルドの誤り 長谷川真理子 リスク社会論 大澤真幸 《学びを広げる》「リスク社会」について考察する 〈資料〉「真水」はわずか二・五％ 夫馬賢治 [コラム] レジリエンスとは何か 枝廣淳子</p>	<p>●書く イ情報の収集、内容の検討 ウ構成の検討 エ考えの形成、記述 カ推敲、共有 [言語活動] エ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理 ウ推論</p>	<p>346~351 352~360</p>	<p>8</p>
<p>⑧ 近代・現代社会を考える コンクリートの時代 隈研吾 現代日本の開化 夏目漱石 漫罵 北村透谷 学問のすすめ 福沢諭吉 《学びを広げる》近代・現代社会を批評する [コラム]神になった動物 ユヴァル・ノア・ハラリ</p>	<p>●書く ア題材の設定 イ情報の収集、内容の検討 ウ構成の検討 エ・オ考えの形成、記述 カ推敲、共有 [言語活動] ウ ◆言葉 イ語彙 ウ・エ文や文章 ◆情報 ア情報と情報との関係 イ情報の整理 ウ推論</p>	<p>368~374 375~385 386~390 391~395</p>	<p>9</p>
<p>読書の扉</p>	<p>◆言語文化 ア 読書</p>	<p>38,64,88, 106,136, 156,174, 198,222, 244,260, 288,318, 344,366, 398</p>	<p>適宜</p>
<p>資料編 現代社会を読み解くために 1 近代・現代社会 2 環境問題 3 言語 4 グローバリゼーション 5 生命・身体・科学 6 メディア・情報 7 芸術・文化 8 心理・認知 情報の読み方・扱い方 報道の文章 調査から発表へ 読解から表現へ 1 引用 2 比較 3 要約 4 調査 5 論理 a 根拠と主張 6 論理 b 接続 7 推敲 論文・レポートの書き方</p>	<p>◎国語科の学習を効果的に進める上で役立つ知識を整理して示し、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度の育成を図っている。</p>		<p>適宜</p>
<p>計</p>			<p>140</p>